人も自然も美しく　活力あふれる　日本一健康文化都市

(仮称)地域交流プラザ住民説明会

基本計画・基本設計の概要について

2007/7/26

袋井市

(仮称)地域交流プラザ基本計画・基本設計概要

(仮称)地域交流プラザは、老朽化した浅羽会館に代わる南部地域の新たな“にぎわい”と“交流”の拠点であり、合併後の市民の一体感を醸成し、均衡あるまちの発展を促す施設として建設

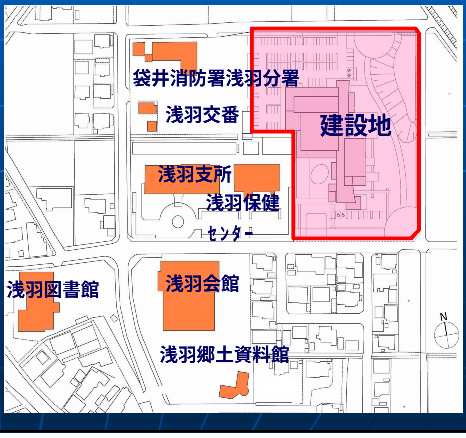
このたびの「(仮称)地域交流プラザ基本計画・基本設計」は、将来的なまちの発展を視野に入れ、市民ワークショップやアンケート調査など、市民のみなさんの意見を基に作成

- ●アンケート調査
- ●市民ワークショップ
- ●パブリックコメント
- ●各種団体等との意見交換

市民の声を設計に!!

施設概要

- ◆ 位置づけ　「南部地域の拠点」「にぎわい・交流」「健康」をキーワードとした複合型多機能施設
- ◆ 建設地　浅羽４１７１番地の１ 外10筆（浅羽支所東側）
- ◆ 施設規模　敷地面積：14,031㎡　延床面積：約4,000㎡
- ◆ 施設構造　鉄筋コンクリート造一部２階建て
- ◆ コンセプト　●文化活動
  ●子育て支援
  ●健康づくり ●環境



アンケート調査の結果

問１　本市では、浅羽会館に替わる「文化活動」や「子育て支援」、「健康づくり」などの機能を持った（仮称）地域交流プラザの建設と、浅羽支所周辺の一体的な整備を行うことにより、次のような効果が期待されると考えていますが、あなたはどのように思いますか。

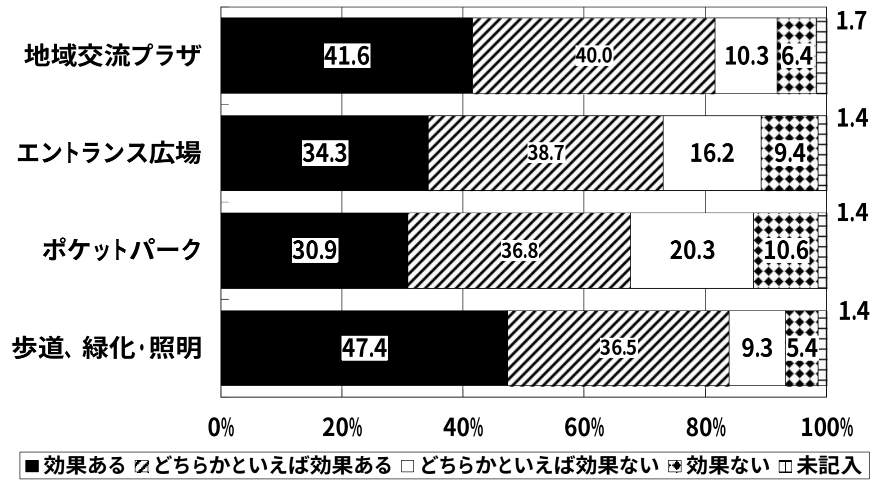
①（仮称）地域交流プラザを建設することで、文化的・健康的な活動が活発化するとともに、親子を支援するあたたかな地域性が育まれる。また災害時における防災機能が充実する。

②浅羽支所前広場（エントランス広場）の整備によって、イベントや市民活動の場として多くの人が集まり、賑わいや交流が生まれる。

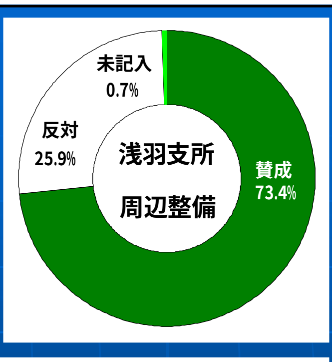
③ウオーキングや散歩の途中に休憩できるポケットパークを整備することで、日常的な交流や健康づくりに取り組みやすくなる。

④歩道の段差解消や緑化、照明などの設置により、“やさしさ”や“うるおい”を感じることができる、快適な環境になる。

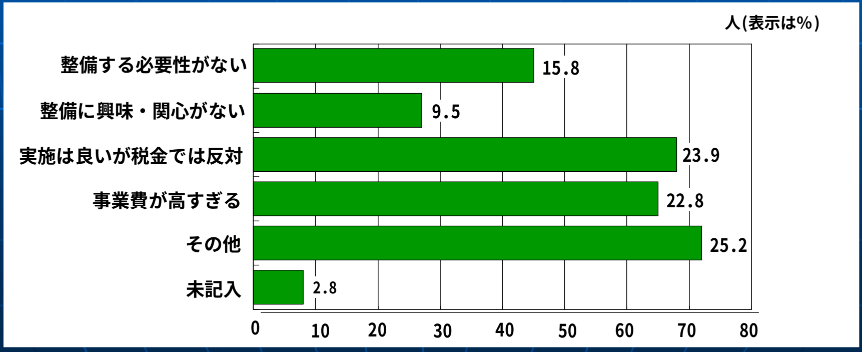
問１回答



問２　浅羽支所周辺整備計画に賛成いただけるかどうか○をつけてください。



問３　問２で「２　反対」に○をつけた方のみお答えください。
本事業に反対される理由について、当てはまるものを一つだけ選び○をつけてください。



市民ワークショップの取り組み

基本計画と基本設計の作成にあたり、平成19年２月から市民ワークショップを立ち上げ、“文化活動”“子育て支援”“健康づくり”の３部会、15人で、市民の視点から設計に必要な提案をするための検討を行う

模型を使って設計者が説明

個々の活動をもとに意見交換

市民ワークショップの意見

◆ 文化活動部会

- 市民が主役の舞台やホールづくり
- ホール運営などに市民が関われるしくみづくり
- 各公民館をつなぐ拠点的な機能
- 浅羽会館ホールでの事業の継続
- 機材の搬入や道具や材料の運び込みがしやすい工夫
- ものづくり工房に流し台を設置
- 会議室の一部に防音機能を持たせる
- 必要な会議室を確保
- 楽屋などをミーティングルームとして活用
- 既存施設の活用も視野に入れた検討
- ギャラリー的な機能を設け、展示がしやすいよう工夫
- 展示パネル等が設置しやすいよう、備品選定にも留意
- 市民サポーターの居場所を確保

◆ 子育て支援部会

- 子育て支援施設の対象年齢を定める
- 防犯上の安全・安心を重要視する
- 子どもの“居場所づくり”を進め、平日はホールを遊び場として開放するなど工夫する
- 屋外で親子が安心して遊べる空間を整備
- 施設周辺へ実のなる木など雑木を植える
- 子ども交流広場とテラスや庭を一体的に活用
- テラスに水道設備を設ける
- ものづくり工房で「放課後工作教室」を開催するなど、全館が子どもの居場所となるようソフト事業を充実
- 車いすやベビーカーでの来館がしやすいよう、通路やエレベーターは必要な幅を確保
- 室内に子どもの声が響かないよう工夫
- 授乳室を設けるとともに、給湯器を設置

◆ 健康づくり部会

- 調理台は、高さが変えられるものを選択
- 料理教室は、定員25～30人分を確保
- 調理室の中央にセンターテーブルを設置
- 食器などが出し入れしやすいよう収納スペースに配慮
- 地場の食材を生かした「食の工房」の整備
- 食の工房は、水洗いができる床を採用
- 浅羽会館の軽運動教室などの継続
- ホールの床は軽運動などにも適した材質を選択
- 浅羽保健センターとの機能連係

◆ 共通意見

- デザイン性よりも機能性を重視
- 利用形態に合わせてスペースを変更することができる
- ガレリアなどのオープンスペースを「市民サロン」として整備
- 開館前からサポーターの育成し
- 市民が運営に携れるよう、各種機能は扱いやすいものを
- 夜間利用者が増加することを考えた運営体制を検討
- 公民館やその他の公共施設との休館日を変えるなど調整
- 事務室は分かりやすい場所に配置
- 駐車場の区画は多く、雨天時など車を出入り口付近に付けられるように
- 外部空間には緑を多く取り入れる
- 市役所の芝生広場のような整備
- 軽食や飲み物を販売することができるカウンターの設置

パブリックコメント実施結果

■名称
・施設や諸室の名称は、解りやすく、親しみやすいものとすること。
■コンセプト
・広大な平野や長い日照時間など浅羽らしさを表現すること。
■位置
・浅羽東部線を絶対視した設計内容を再検討すること。
■防災
・十分な地盤及び治水対策を行うこと。
■文化活動
・野外彫刻の設置や美術品の展示を行うなど、芸術とふれあう機会を創出すること。
・ものづくり工房や調理室を１階に設けること。

■文化活動
・ものづくり工房や調理室は、特定の団体や愛好家に限らず、不特定多数の利用に興ずる施設とすること。
・図書館のような自習室を設けること。

■子育て支援
・子育て関連施設は独立したスペースを確保する。

■共用部分
・安全な避難路の確保に努めること。
・階段やエレベーターなどの設置場所を検討すること。

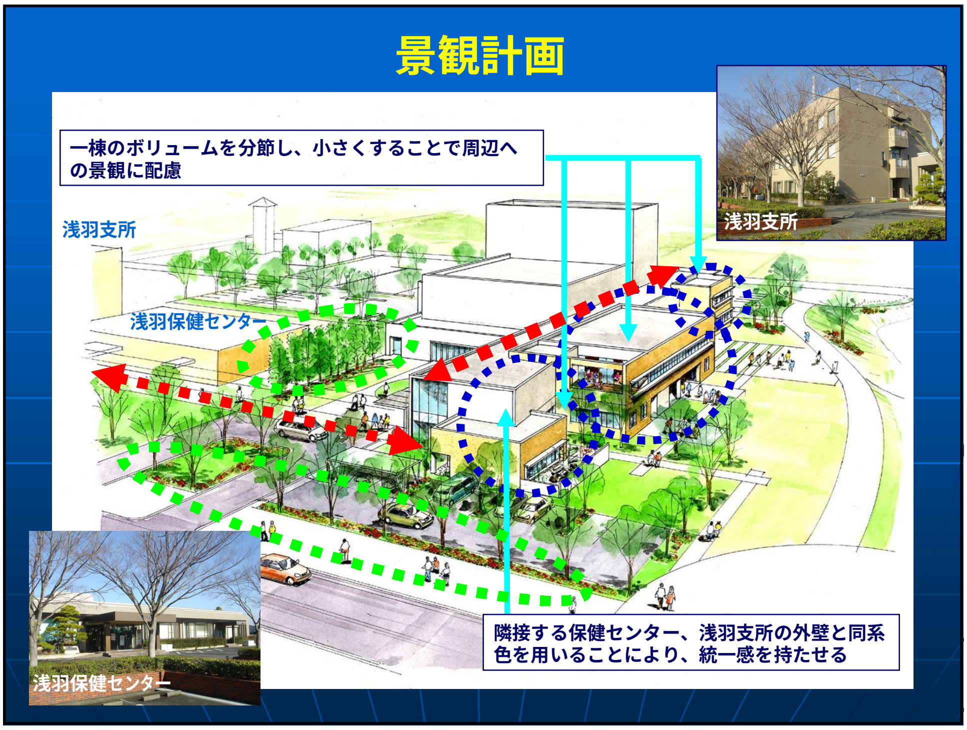
■運営
・ランニングコストを意識した設計とすること。
・テナント貸しなどで収益を得るなど、運営コストの削減に努めること。
・省エネに努め、冷暖房を効果的に行える仕組みを採用すること。

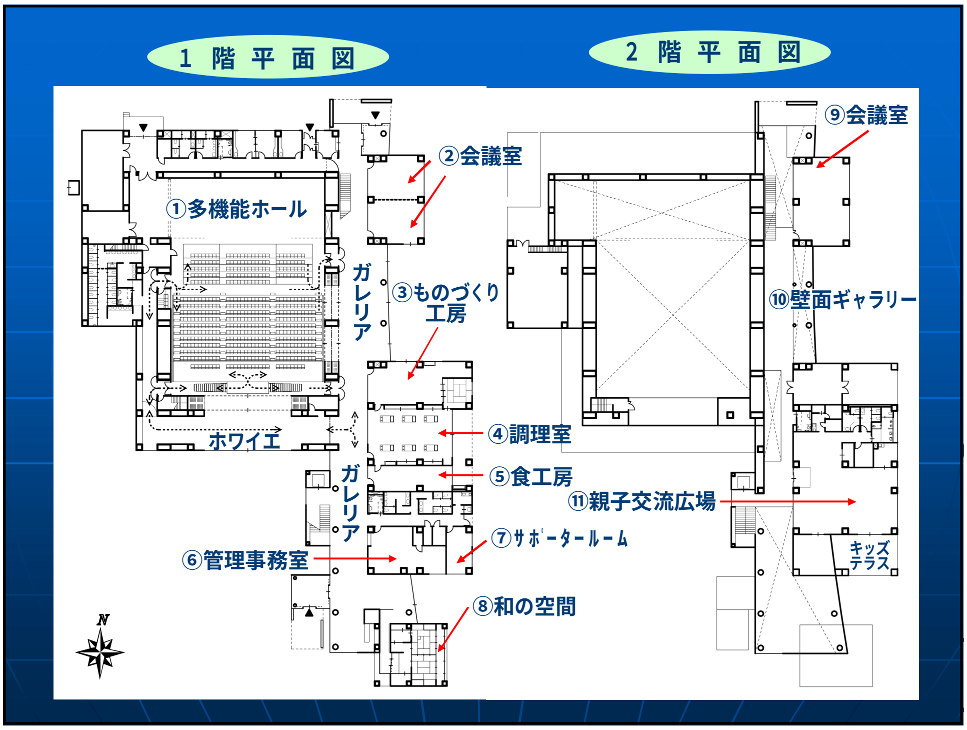
以上、市民の皆さんの意見や提案に基づき基本設計を作成

(仮称)地域交流プラザ基本計画・基本設計

外観イメージ

完成イメージ図


景観計画
一棟のボリュームを分節し、小さくすることで周辺への景観に配慮
浅羽支所
浅羽保健センター
浅羽支所
浅羽保健センター
隣接する保健センター、浅羽支所の外壁と同系色を用いることにより、統一感を持たせる

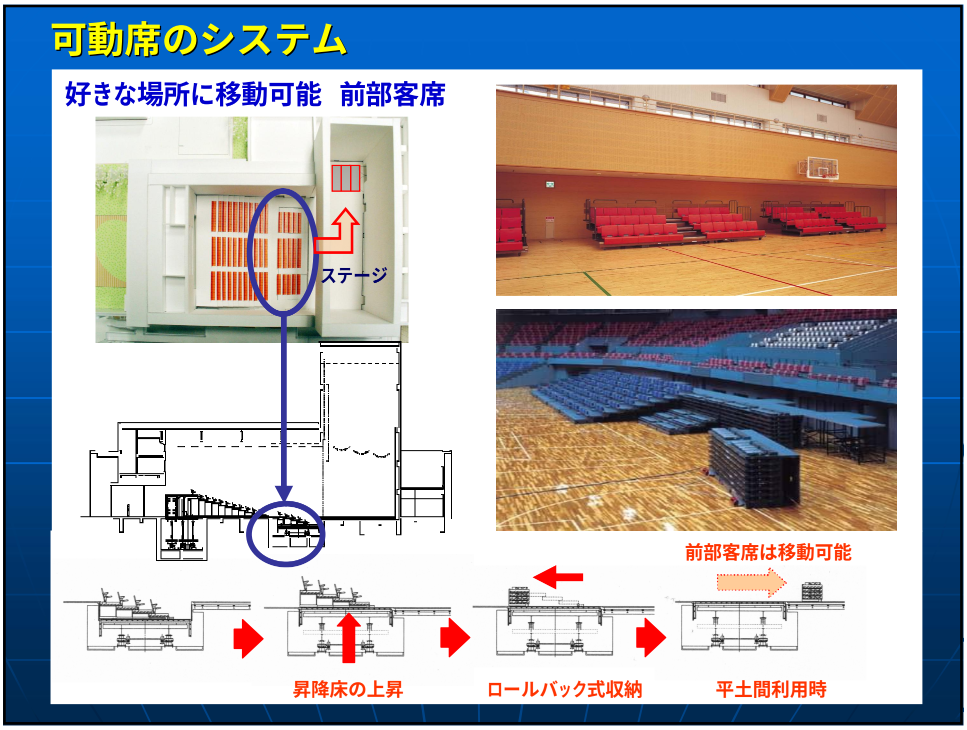

1 階 平 面 図
2 階 平 面 図
①多機能ホール
②会議室
ガレリア
③ものづくり工房
ホワイエ
④調理室
⑤食工房
ガレリア
⑥管理事務室
⑦サポータールーム
⑧和の空間
⑨会議室
⑩壁面ギャラリー
⑪親子交流広場
キッズテラス
N

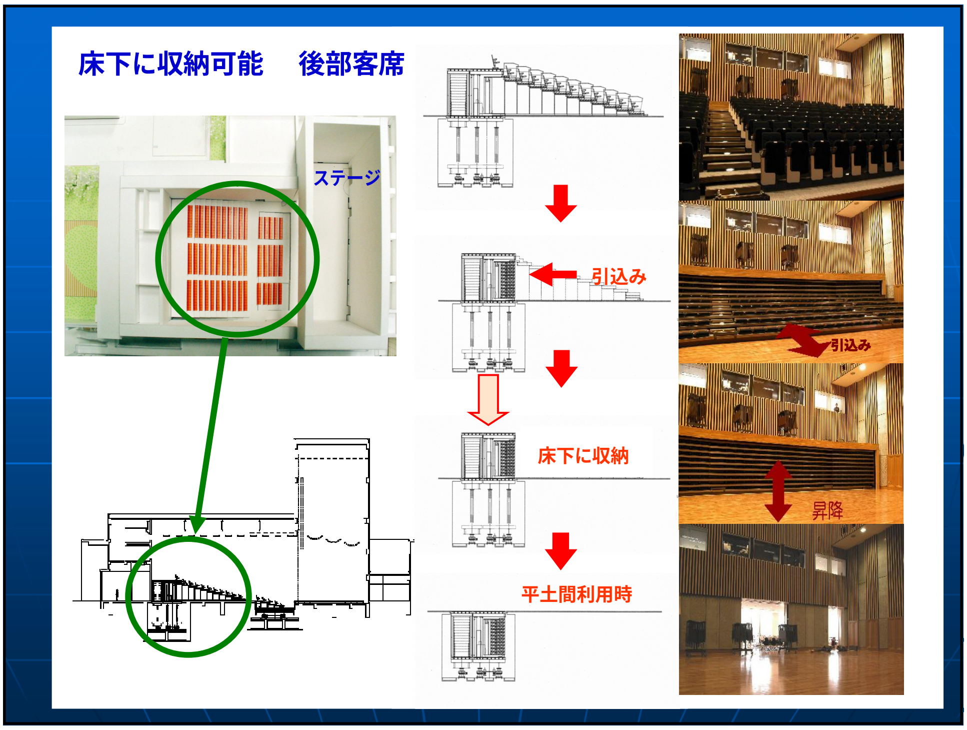
★特徴１　変幻自在な多機能ホール

・ステージは270㎡あり浅羽会館のステージの約1.8倍
・音楽仕様から舞台仕様へと変化

音楽仕様(シューボックス形式)

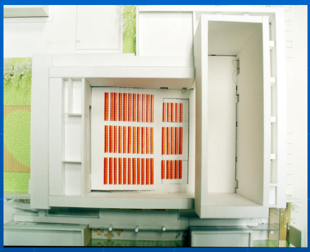
舞台仕様(プロセミアム形式)


可動席のシステム
好きな場所に移動可能　前部客席
ステージ
前部客席は移動可能
昇降床の上昇
ロールバック式収納
平土間利用時


床下に収納可能　後部客席
ステージ
引込み
床下に収納
平土間利用時
引込み
昇降

多機能ホールのバリエーション

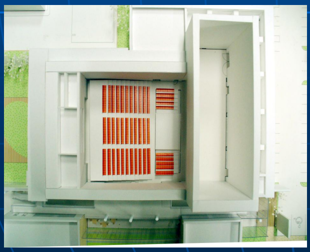
（1） 501席の大ホール



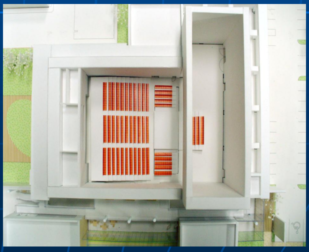
（2） 363の小ホール

（3） 平土間のホール

（4） スラストステージ

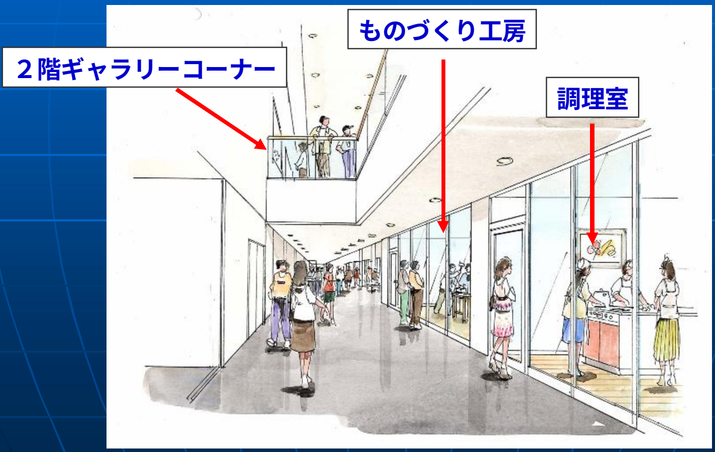


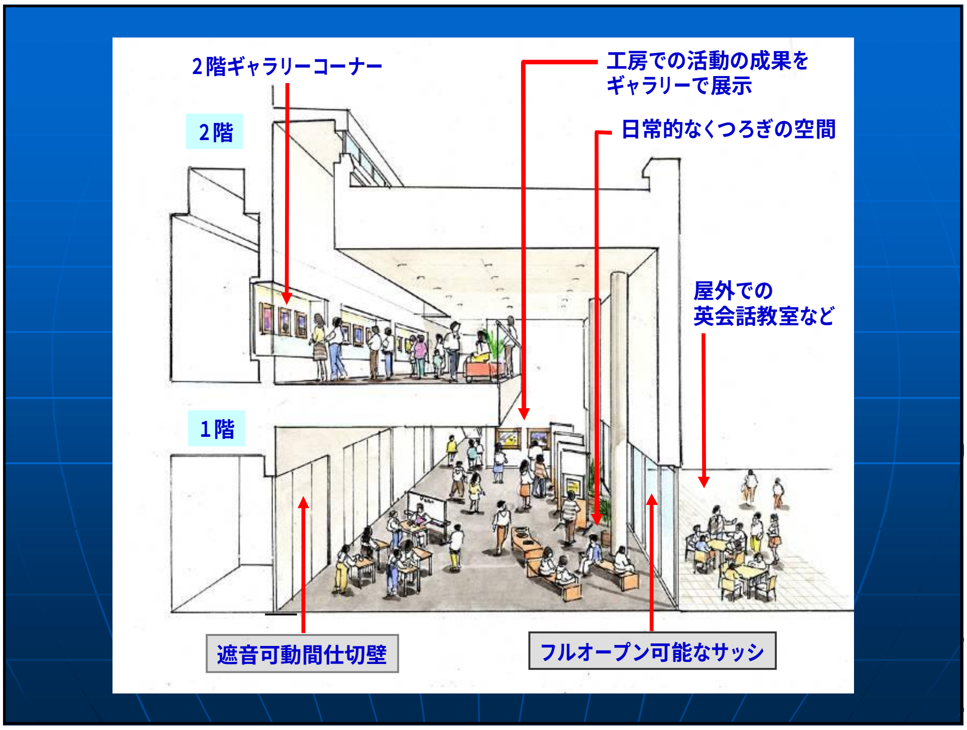
（5） センターステージ



★特徴２　交流の機会を創出するガレリア

施設の南北を貫くガレリアは、全長約50メートル
ガレリアに面した諸室は、内部の活動状況が見える構造
お互いの活動から刺激を受け、新たな生涯学習や交流の機会を創出





2階ギャラリーコーナー
工房での活動の成果を
ギャラリーで展示
2階
日常的なくつろぎの空間
屋外での
英会話教室など
1階
遮音可動間仕切壁
フルオープン可能なサッシ

ホワイエの活用
通常のホワイエ→
↓ホール壁を開放した状態

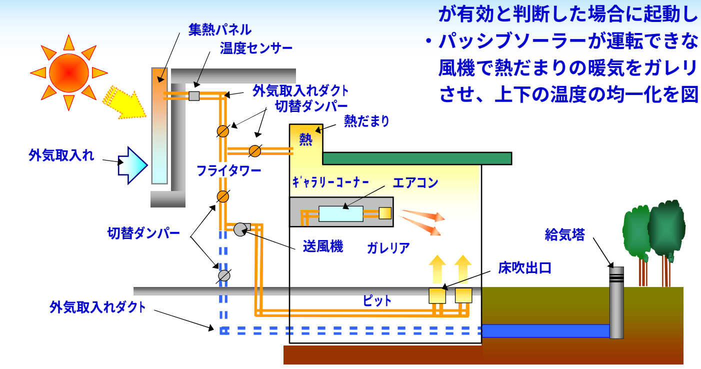
★ プラザの特徴３
CO2の削減に向けてパッシブソーラーシステムを採用

空調設備の補助機能として「パッシブソーラーシステム」を採用
大気熱や地熱の自然エネルギーを利用した環境にやさしい空調
空調に外気を取り入れることで、ＣＯ２と経費の削減が可能

パッシブソーラー
クールチューブシステム概念図

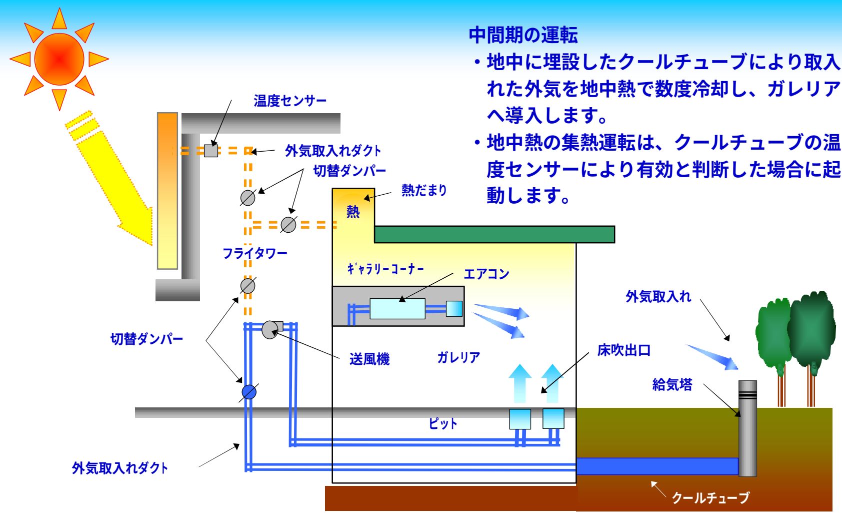
冬期の運転

・パッシブソーラーの運転は、温度センサーが有効と判断した場合に起動します。
・パッシブソーラーが運転できない時は、送風機で熱だまりの暖気をガレリア内に循環させ、上下の温度の均一化を図ります。



中間期の運転

・地中に埋設したクールチューブにより取入れた外気を地中熱で数度冷却し、ガレリアへ導入します。
・地中熱の集熱運転は、クールチューブの温度センサーにより有効と判断した場合に起動します。



スケジュール

項　　目	平成19年度	平成20年度	平成21年度
実施設計			
造成工事			
建築工事			
市民ワークショップ			
施設名称の募集･決定			
地域交流プラザ開館		落成21年３月	

ご静聴ありがとうございました